

2011年9月19日 東京都新宿区明治公園での「さようなら原発」集会

武藤類子さんスピーチ全文

みなさん、こんにちは。福島から参りました。今日は福島県内から、避難先から何台もバスを連ねてたくさんの仲間と一緒にやって参りました。初めて集会やデモに参加する人もたくさんいます。それでも、福島原発で起きた悲しみを伝えよう、私たちこそが原発いらないの声を上げようと、声をかけあい誘いあってやって来ました。

はじめに申し上げたいことがあります。「3・11」からの大変な毎日をいのちを守るためにあらゆることに取組んできたみなさん、ひとりひとりを深く尊敬いたします。それから、福島県民に温かい手を差し伸べ、つながり、様々な支援をしてくださった方々にお礼を申し上げます。ありがとうございます。そして、この事故によって大きな荷物を背負わせることになってしまった子どもたち、若い人々に、このような現実をつくってしまった世代として心から謝りたいと思います。本当にごめんなさい。

さて、みなさん、福島はとても美しいところです。東に紺碧の太平洋を臨む浜通り。桃・梨・りんごと、くだものの宝庫の中通り。猪苗代湖と磐梯山のまわりに黄金色の稲穂が垂れる会津平野。その向こうを深い山々がふちどっています。山は青く、水は清らかな私たちのふるさとです。「3・11」原発事故を境に、その風景に、目には見えない放射能が降りそそぎ、私たちはヒバクシャとなりました。大混乱の中で、私たちには様々なことが起こりました。すばやく張りめぐらされた安全キャンペーンと不安のはざままで、引き裂かれていく人と人とのつながり。地域で、職場で、学校で、家庭の中で、どれだけの人々が悩み悲しんだことでしょうか。毎日、毎日、否応無くせまられる決断。逃げる、逃げない？食べる、食べない？子どもにマスクをさせる、させない？洗濯物を外に干す、干さない？畑を耕す、耕さない？何かに物申す、だまる？様々な苦渋の選択がありました。

そして今、半年という月日の中で次第に鮮明になってきたことは、

「事実は隠されるのだ」

「国は国民を守らないのだ」

「事故はいまだに終わらないのだ」

「福島県民は核の実験材料にされるのだ」

「莫大な放射能のゴミは残るのだ」

「大きな犠牲の上になお、原発を推進しようとする勢力があるのだ」

「私たちは捨てられたのだ」

私たちは疲れとやりきれない悲しみに深いため息をつきます。

でも口をついて出てくる言葉は、
「私たちをばかにするな」「私たちの命を奪うな」です。

福島県民は今、怒りと悲しみの中から静かに立ち上がっています。
「子どもたちを守ろう」と、母親が父親が、おじいちゃんが、おばあちゃんが、
「自分たちの未来を奪われまい」と若い世代が、大量の被ばくにさらされながら事故処理に携わる原発従事者を助けようと、労働者たちが、土地を汚された絶望の中から、農民が、放射能による新たな差別と分断を生むまいと、障害を持った人々が、ひとりひとりの市民が、国と東電の責任を問い続けています。
そして、「原発はもういらぬ」と、声を上げています。
私たちは静かに怒りを燃やす東北の鬼です。

私たち福島県民は、故郷を離れる者も、福島の地にとどまり生きる者も、苦悩と責任と希望を分かち合い、支えあって生きていこうと思っています。私たちとつながってください。私たちが起こしているアクションに注目してください。政府交渉、疎開裁判、避難、保養、除染、測定、原発・放射能についての学び。そして、どこにでも出かけ、福島を語ります。今日は遠くニューヨークでスピーチをしている仲間もいます。思いつく限りのあらゆることに取り組んでいます。私たちを助けてください。どうか福島を忘れないでください。

もうひとつ、お話したいことがあります。
それは、私たち自身の生き方・暮らし方です。私たちは、なにげなく差し込むコンセントの向こう側を想像しなければなりません。便利さや発展が、差別と犠牲の上に成り立っている事に思いをはせなければなりません。原発はその向こうにあるのです。人類は、地球に生きるただ一種類の生き物にすぎません。自らの種族の未来を奪う生き物が他にいるのでしょうか？

私はこの地球という美しい星と調和したまっとうな生き物として生きたいです。ささやかでも、エネルギーを大事に使い、工夫に満ちた、豊かで創造的な暮らしを紡いでいきたいです。

どうしたら原発と対極にある新しい世界を作っていけるのか。誰にも明確な答えはわかりません。できうることは、誰かが決めた事に従うのではなく、ひとりひとりが、本当に本当に本気で、自分の頭で考え、確かに目を見開き、自分ができるこ

とを決断し、行動することだと思うのです。ひとりひとりにその力があることを思いだしましょう。私たちは誰でも変わる勇気を持っています。奪われてきた自信を取り戻しましょう。原発をなお進めようとする力が、垂直にそびえる壁ならば、限りなく横にひろがり、つながり続けていくことが、私たちの力です。たったいま、隣にいる人と、そっと手をつないでみてください。見つめあい、お互いのつらさを聞きあいましょう。涙と怒りを赦しあいましょう。今つないでいるその手のぬくもりを、日本中に、世界中に広げていきましょう。

私たちひとりひとりの、背負っていかなければならない荷物が途方もなく重く、道のりがどんなに過酷であっても、目をそらさずに支えあい、軽やかにほがらかに生き延びていきましょう。ありがとうございました。